

日本アフリカ学会



第62回学術大会

Japan Association for African Studies
The 62nd Annual Conference

公開シンポジウム

円卓会議

つくる
つなげる
つみあげる



アフリカ地域研究×社会実装について考える

2025年5月18日(日) 13:00-16:30

場所：京都大学吉田キャンパス
吉田南4号館3階 4共30講義室



日々変容するアフリカ地域の社会、経済、情勢や自然環境の中で、研究、そして「研究と実践」を取り巻く状況も近年大きく変化してきています。研究者、政策決定者、出資者、技術者、そして様々な関係性のなかに生きる現地のひとびとや協力者。アフリカにおける現代的な研究と社会実装のとらえ方は、こうした異なるひとや組織とのつながりの中から、新たな関係性を定義し、現場の知識と「外の人間」である研究者の知識とをすり合わせ、つなげ、新たな知識と実践のありかたの枠組みを共に作り出すプロセスだといえます。

それは様々な失敗と成功の連続の中で、知識やノウハウ、現場の人との関係性をつみあげる作業でもあります。また、現地の人々のニーズ、研究者としての関心、出資元からの要請など、時に相反することもある様々な必要に応えようとする中で、アクセス可能なリソースの中から最善の成果を導き出すために思索し、アウトプットの矛先を共に創出する試みでもあります。

今回は、異なる地域、分野で社会実装を視野に入れた研究や研究プロジェクトを実施してきた報告者に円卓会議に参加いただき、プロジェクトの立ち上げから実施プロセスにおいて、それぞれのご経験に応じて、日本やアフリカの学術機関や政府機関、営利組織や非営利組織など、そして何より現場の人と一緒に「つくり」「つなげ」「つみあげた」経験について報告、共有いただくことで、アフリカ地域研究における社会実装と研究の新たなとらえ方について共に考える機会としたいと思います。その中で、様々な研究、そして実践の形について議論できたら幸いです。

- ・ 研究プログラム、計画をつくる
- ・ 実際に土をつくる、ものをつくる、人を「つくる（教育する）」
- ・ 設備をつくる、研究環境をつくる
- ・ 関係性をつくる、実施の枠組みをつくる

- ・ 人や組織をつなげる
- ・ 学術的分野をつなげる
- ・ 技術（現地のノウハウ・科学技術・知見...）をつなげる

- ・ 実際に現場で土やものをつみあげる。量る。積む。崩す。やりなおす。
- ・ 研究者同士、現場の人との関係性をつみあげる。
- ・ 知識の蓄積、共有、理解の共有のなかで知見をつみあげる、データベースを作る、アーカイブする。

登壇者



司会
高橋基樹
(京都大学)

アフリカでの道直し技術の開発と普及に向けた取組

福林良典(宮崎大学)

開発途上国における小規模道路の通行性改善に向けて、地域住民による実施を想定した現地調達可能な資機材を利用した道路整備手法の開発と、その社会実装に関する実践研究を行っている。原著論文に「開発途上国農村部での住民参加による小規模道路橋架設を支援する国際技術協力」(2022年、土木学会論文集)などがある。



水と衛生の価値を見直し環境衛生の実現を目指す

原田英典(京都大学)

環境衛生工学を基盤としつつ、分野横断的アプローチで水・衛生の実現を目指した課題解決型研究を行う。マラウイ農村の循環型トイレ導入実践、ビクトリア湖の水質汚濁研究、ザンビア・ルサカの参加型下痢リスク管理など。2022年よりWHO/UNICEF水・衛生共同監視プログラム諮問委員。共編著に『サニテーションと健康』(2023年、北海道大学出版会)など。



アフリカにおける都市の有機性ごみをつかった環境修復と農業生産の改善

大山修一(総合地球環境学研究所)

2000年、西アフリカのサヘル帯、ニジェールの農村で住み込み調査を開始。農耕民と牧畜民間の紛争を身近に経験しながら、住民の日常生活から学び、都市のごみをつかった荒廃地の緑化をすすめる。現在、京都大学とのクロスアポイントメントで総合地球環境学研究所「有機物循環プロジェクト」を開始し、日本国内(京都)とアフリカ5カ国で活動。



人文社会科学研究と社会実装の間ーアフリカ産業人材の技能評価とソフトスキル向上支援の挑戦ー

山田肖子(名古屋大学)

専門は知識社会学、国際開発学、アフリカ研究で、知識の社会的構成、人材育成に関わる政策や認識論などを研究している。エチオピア、南アフリカを中心に産業人材の能力評価や人材育成に関わるプロジェクトを展開。近著は「途上国の産業人材育成ーSDGs時代の知識と技能」(2021年、日本評論社)、「学びの本質」(2024年、新潮社)など。



カメルーン東南部で人間と野生動物の連関を組み直す

安岡宏和(京都大学)

コンゴ盆地の熱帯雨林を主なフィールドとして、人間と自然の連関と共生に関する生態人類学の研究をしている。また、多様なアクターによる知識の共創について実践的研究をしている。著書に『アンチ・ドムス：熱帯雨林のマルチスピーシーズ歴史生態学』(2024年、京都大学学術出版会)がある。



コメンテーター

渡邊松男
(立命館大学)

立命館大学国際関係研究科教授
新潟県立大学、国際協力機構
客員専門員、ボスニア・ヘルツェゴ
ビナ首相アドバイザー(経済政策)
英マンチェスター大学(Ph.D.)、
米コロンビア大学(MPA)
近著「アフリカ経済開発論」(2025、
ミネルヴァ書房、分担執筆)